

街道・宿場・湊 二
 中山道 番場宿
 米原町番場

◆番場宿の概要

番場宿は江戸時代には中山道六十七宿の内、江戸より六十二番目の宿場です。番場は、西番場と東番場に別れており、古代・中世の官道である東山道の宿駅とされているのが西番場で、元番場とも呼ばれています。西番場より約100mほど東にある東番場が、江戸時代 中山道の番場宿です。宿場の規模は、天保十四年（一八四三）の『中山道宿村大概帳』によると、宿の長さは南西一町十間（約〇・一四km）、家数百七十八軒、人口八百八十八人、本陣一軒、脇本陣一軒、旅籠屋十〇軒とあり、宿場のながさは中山道中、最も短く、旅籠の数も最も少ない部類に入ると言えます。

◆蓮華寺

元は法相宗の寺院でしたが、後に時宗十二派の一つ一向派の本山となりました。

街道・宿場・湊 四
 北国街道 米原宿
 米原町米原

◆米原宿の概要

北国街道は中山道鳥居本宿の北端より分岐し、琵琶湖の東岸の各宿場を経て越前国へと通じる街道です。北国街道と呼ばれるようになったのは、明治時代に入ってからと考えられ、江戸時代の多くの資料は「北国道」とあります。その最初の宿場が米原宿です。幕末の慶応四年（一八六八）の明細帳によると、家数百八十五軒、本陣一軒、脇本陣一軒、旅籠屋十六軒、問屋場は一カ所とあります。人口は、翌年の「助郷村々家数人別取調帳」によると、九百六十八人を数え、その内女性が五百二十一人と女性が全体の七割を占めていたようです。

一方、米原宿は江戸時代初期の慶長期に開港した米原湊の町としても機能していました。江戸初期の資料では、特に湊の東側に北国街道を挟んで短冊状の町並みがあったようです。また、

す。元弘三年（一三三三）五月、京都を追われ鎌倉へ向かう六波羅探題 北条仲時が、行く手を京極道蒼らに阻まれ、総勢四百三十余人が切腹してはたした所として広く知られています。境内には、北条仲時らを供養する五輪塔が整然と並び大きな墓地があり、また、自刃した者の氏名や年齢を記した過去帳「陸波羅（ろくはら）南北過去帳」（重要文化財）が伝わっています。

◆米原汽車汽船道道標

慶長年間（一五九六〜一六一五）北村源十郎によって米原に湊が築かれ、湊と中山道をつなぐ深坂道が切り拓かれました。道標はその分岐点にあり、鉄道開通の明治二十二年以降に建立されたものです。元は法雲寺近くの三叉路にありました。



米原汽車汽船道道標

街道に向かつて六つの舟入が設けられ、多くの蔵が建ち並んでおり、町の賑わいを物語っています。



米原宿石版画

◆青岸寺

曹洞宗の寺院で、中世には米泉寺と呼ばれ、京極道譽により建立されたと伝えられています。江戸時代に入り、曹洞宗となり、青岸寺と改名しました。回遊式枯山水の庭園は、彦根城の玄宮園などを築いた香取氏により作庭されたと言われ、国の名勝に指定されています。



青岸寺庭園



近江名所図会(蓮華寺)



番場宿散策マップ



米原宿散策マップ